

いっぽいっぽ

R 2・11・6 No.7

天草市立有明小学校

特別支援教育コーディネーター

山本美紀



家庭のルールは一貫して守らせましょう

「鬼滅の刃」が子どもたちには大人気のように、「鬼滅」とか「炭治郎」「禰豆子」というだけで、目が輝いて雄弁に話す姿を見ると、きっとハラハラ、ドキドキしながらも惹かれているんだろうなと思います。こんなときこそ、家庭でルールを決めておかないと子どもの要求丸呑みになってしまうかもしれません。

家庭でのルール

生活上のもの
挨拶・帰宅時間・就寝時間・姿勢など
道徳上のもの
他人に迷惑をかけない
うそをつかない など

はっきりしたルールであること
子どもの意見も聞いて一緒に
作ることも大切
親も子も守ることが大切



安易にモノを買い与えすぎると子どもは、手に入れるための努力や我慢や工夫ができなくなり、自分の気持ちを抑えられなくなってしまう。

お金より心や愛情を使いましょう。

これまでの常識では、通用しない問題が増えています。話せばわかるとは限りませんが、話さなければもっとわかりません。特に、思春期になると身体の成長に心の成長が追いつかず、不安定になりやすい時期です。小さなことで有頂天になったり、逆にひどく傷つき落ち込んだりします。異性への興味が高まり、親や先生がうっとうしく感じるようにもなります。腫れ物にさわるように接するのでなく、これまで以上に

会話などを通じてかかわる努力をしましょう。その際には、行動の結果にはきちんと責任が伴うことを自覚させることも大切です。

【家庭教育手帳～熊本県版】



テレビ・DVD・スマホ・ゲームは使いよう。

のめり込んでしまうと、人間関係をつくる力や他人を思いやる心が育たない。仮想と現実の区別がつかなくなるなど健全な心の成長に影を落としかねない。

内容や時間、使う場所や目的などを決め、よいと思われるモノと一緒に使ったりしながら、内容を話題にコミュニケーションを深めましょう。

先人に思いをよせて ～先人から学ぶ～

NHK 大河ドラマで明智光秀が放映されています。明智光秀の孫三宅藤兵衛の墓は広瀬公園がある丘の麓にあり、自治会の方々が墓を守ってくださっています。富岡城の城主でもあった彼が、この地で自刃した運命をおもんばかって、きっと地元の皆さんが代々伝えてこられたのでしょう。今、ちょっとした観光スポットになっているそうです。

代々伝えていく教育として、朝ドラ「エール」の舞台である福島（会津）の教育に触れてみます。東日本大震災の影響でいまだに、故郷へ帰れない人々がいらっしやるのですが、福島では私たちも学ばなければいけない教育が行われていました。

会津武士（上士）の子は6歳になると、居住地域ごとに「什」という組織に入られます。「什」と書いてジュウと読みます。什とは「十人」を一単位とする組織のことですが、別に十人ではありません。地域ごとに8つに分けられているので、人数はまちまちでした。この什には身分差別は、全くありませんでした。例えばどんなエリート嫡子坊ちゃんでも、無職浪人の末息でも同じ待遇で扱われたのです。そして、その「什」が何をするのかということと単なる「遊び友達」なのです。子どもは毎日、当番の家に集まります。そして最年長の什長の指示にしたがって『「什」の誓ひ（掟）』というのを大声で復唱します。「什の誓ひ」とは以下のとおりです。

- 一、年長者の言ふことには背いてはなりません。
 - 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません。
 - 一、虚言（ウソ）を言ふ事はなりません。
 - 一、卑怯な振る舞いをしてはなりません。
 - 一、弱いものをいぢめてはなりません。
 - 一、戸外でモノを食べてはなりません。
- ならぬ事はならぬものです。



最後の「ならぬことはならぬものです」の締めくくりが一段と厳しさを感じます。また、この「什の誓ひ」を破ったものには、ちゃんとそれなりの制裁があるのです。幼いながらもしっかりと「罪と罰」を身につけさせられて、会津の少年達は4年間で「什」で過ごし、10歳になると藩校「日新館」へと入学していくのです。

現在の世の中には取り入れにくいものもありますが、このように生活のルールというかマナーを地域で統一してあると、子どもにとってはとてもわかりやすく迷わないですみます。家でも隣家でも離れた家でもどこに行っても同じことを大人から言われて育つのですから、それが当たり前になってきます。

このように、昔から大人たちは、当たり前のように特別な支援をしてきました。例えば、しめ縄をなったり、神棚の御幣を作ったりと日本古来の文化は全て先人から受け継がれた物です。祖父から父へ、父から子へ、母から子へ、ある時は手を添えて、ある時は目で見ながら、伝えてもらうことこそ当たり前のように大きな支援なのです。

特別支援教育を考える上で常に大切なことは「困っていることをおもんばかり、その子にとってわかりやすい当たり前の支援を セッティングする。」ことです。特別・・・という言葉はつくけれど当たり前の支援をする教育にほかなりません。